

県の「ふるさと絆情報ステーション」スタート 避難者に交流の場、情報提供

郡山で第1号(ヨーク富久山店)開設

県内各所順次オープン

ふるさとを離れて仮設住宅や借上げ住宅などで生活する避難者に様々な情報や交流の場を提供する「ふるさと絆情報ステーション」

郡山市のヨークベニマル富久山店に開設された。同ステーションは県の「がんと絆づくり」

の第一号が十一月十八日(金)、郡山市のヨークベニマル富久山店に開設された。同ステーションは県の「がんと絆づくり」の「がんと絆づくり」の一環で、県と災害時応援協定を締結している企業の店舗の一角に設置される。県や各自治体、支援団体などの情報を掲示し、また被災者同士の交流を図る場として活用していく。同事業を活用して雇用されたスタッフが常駐し、各種相談などを受け付ける。

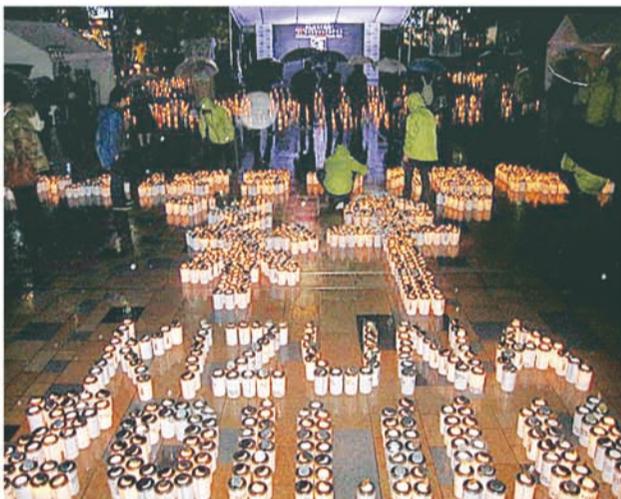


スタッフの大橋万里子さん(左)、小泉愛さん

復興を願う想いをキャンダルに込めて灯す「絆づくり」が十一月十一日(金)、郡山駅西口駅前広場で開催された。イベント参加者にメッセージを記入してもらったキャンダルホルダーを使用して、三つの幻想的な灯が会場を照らした。

がんばろう福島! “絆”づくり応援事業で開催 復興願う3000個の灯

郡山駅前でキャンドルナイト



キャンドルで作成されたモニュメント

復興を願う想いをキャンダルに込めて灯す「絆づくり」が十一月十一日(金)、郡山駅西口駅前広場で開催された。イベント参加者にメッセージを記入してもらったキャンダルホルダーを使用して、三つの幻想的な灯が会場を照らした。

あいにくの雨模様にも関

開設式では森合正典県文化スポーツ局長、協力事業者の小檜山宣幸ヨークベニマル常務執行役員販売事業部長、運営委託を受けた「NPO法人うつくしまNPOネットワーク」の佐久間仁一理事長があいさつした。スタッフの大橋万里子さんが「一人でも多くの方に気軽に立ち寄ってもらえる場所にした」と決意を表明した。

十一月にはダイユーエイト黒岩店(福島市)、リオンドール神明通り店(会津若松市)にも設置され、順次県内各所に展開される予定だ。

23日には開成山公園で

次回は十二月二十三日(金)に郡山市の開成山公園で開催される。規模を拡大して、さらに多くの希望の灯が照らされる。

絆づくり支援センターのご案内

仮設住宅でのより良い暮らしを私たちがサポートします! 困りごとがございましたら、お電話・お便りください。皆さんの声をお待ちしています!



<各地域の絆づくり支援センター>

- 県北地域 絆づくり支援センター
☎ 024-573-8425
〒960-8141 福島市渡利字鳥谷下町 67-1
- 県中地域 絆づくり支援センター
☎ 024-944-0083
〒963-8835 郡山市小原田 2-19-19
- 県南地域 絆づくり支援センター
☎ 0248-23-8909
〒961-0905 白河市本町 2
- 会津・南会津地域 絆づくり支援センター
☎ 0242-24-8862
〒965-0009 会津若松市八角町 13-45
- 相双地域 絆づくり支援センター
☎ 0244-24-0222
〒975-0034 南相馬市原町区上佐佐原 94-4
- いわき地域 絆づくり支援センター
☎ 0246-35-1425
〒970-8026 いわき市平字愛谷町一丁目 4 番地 10 桂ビル 1 階

「絆新聞(携帯版)」配信中

各種情報提供 投稿も募集



<http://www.utsukushima-npo.jp/kizunashinbun/entry.html>

絆新聞編集室では「絆新聞(携帯版)」を配信しています。仮設住宅や借上げ住宅などで避難生活を送られている方々のために、集会所や公共施設などで行われるイベント、相談会や、絆づくり支援センターのトピックスなど各種情報を定期的に お知らせします。また、読者の皆様の情報発信ツールとして、掲示板のようにお使いいただきたいとも考えておりますので、仮設住宅での催し物、その催し物のスタッフの募集、困りごとの相談、尋ね人などどんな事でも結構です、編集室までお知らせください。電話、郵便、メールいずれでもかまいません。随時掲載していきます。

「絆新聞(携帯版)」配信以外の目的で使用することはありません。

「絆新聞(携帯版)」配信には、掲載されているQRコードからサイトへアクセスし、メールアドレスを登録していただくだけです。入会費などの費用は一切かかりません(ただしお使いの携帯電話会社とご契約の通信費はかかります)。

登録されたメールアドレスは当方が厳重に管理し、未曽有の震災が起きた年も残りわずか。取材した方が「前を向いてこれか」とおっしゃいました。苦難の豪雨にさらされた福島に大きな虹を描く光が届く新年でありますように。(義)

編集後記

創刊号発刊後に訪れた取材先で「この人は家の斜め向かいの人ですよ。」「○○さんは今○○に居るんだね。」といったお話を伺うことが何度かありました。そういうお話がされる方々は紙面を見ながら、自分の子供や孫を見るような、とても穏やかで、にこやかな表情をされるのです。

情報量が多いとはお世辞にも言えない弊紙ですが、小さな「再会」を取り持つことができたと思うと胸に響くものがあり、取材に伺うたびに「人と人とのつながり」とはどういうものなのか：改めて学ばされていると感じます。紙面充実にも励まなければ、「燃料」も一緒に頂いています。

購読のご案内

絆新聞は、市町村の広報紙に同封して配布し、仮設住宅のそばの集会所やふるさと絆情報ステーションなどでも配布しています。また、次の方法で郵送による購読を受付しています。送り先の住所・氏名、希望する号数を明記し、下記住所まで、90円切手をお送りください。(原則として、お一人一部とさせていただきます。)

〒963-8835 福島県郡山市小原田 2-19-19
NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
絆新聞編集室購読係